

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスともに		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和8年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28 (回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和7年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12 (回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>専門職が充実し、多職種連携による質の高い支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護師・理学療法士・保育士・福祉職など多職種配置 ●医療的ケア児にも対応できる体制 ●チームでのミーティング・情報共有・計画立案が実施されている 	<p>チーム支援の質を高める日常的な工夫</p> <p>支援前後のミーティングを徹底し、情報共有と振り返りを習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職員全体でこどもの状況を把握し「属人化しない支援」を意識 ●一部共有漏れの課題はあるが、改善意識が高く継続的に見直し実施 ●個々に応じた環境づくり ●スロープ設置などバリアフリー対応 ●活動内容に応じて空間を調整し「わかりやすい構造化」を意識 ●清掃・消毒を毎日実施し、安心・安全な環境を維持 ●記録と支援のつながりを重視 ●個別デイサービス日誌を活用し、日々の様子を蓄積 ●記録を次回支援や計画見直しに反映 ●感覚ではなく「根拠ある支援」を意識している ●保護者との信頼関係づくり ●送迎時や連絡帳でのこまめな情報共有 ●ニーズを汲み取った計画作成 ●丁寧な説明・同意形成を重視 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療的ケア児への支援体制の強化 ●看護師配置の充実や役割分担の明確化 ●安全性と負担軽減の両立を目指した体制づくり ●ケア内容に応じた人員配置の最適化 ●情報共有の質の向上（“見える化”） ●医療ケア児向けに詳細なケア記録（日誌）の導入検討 ●SNS・お便り・オンライン等を活用した情報発信の強化 ●家族支援や研修機会の周知を強化 ●家族支援の拡充 ●ペアレントトレーニングやミニ勉強会の定期化 ●面談機会の増加（定期・希望制） ●保護者同士の交流機会の工夫（小規模・参加しやすい形） ●子どもの参加しやすさを重視した活動設計 ●消極的な子どもでも参加しやすい小集団・段階的支援 ●活動の事前説明や見通し提示の強化 ●個別と集団のバランス調整 ●活動機会の公平性の向上 ●人気プログラムの複数回実施 ●利用曜日による機会差の軽減 ●希望に応じた柔軟な参加調整
2			
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>支援の質をさらに高めるための体制・仕組みの充実</p> <p>現在、適切な支援は提供できていますが、医療的ケアや個別対応など多様なニーズに対して、より柔軟に対応していくための体制の余力や、情報共有・活動機会の工夫については、さらなる充実の余地があります。</p>	<p>医療的ケア児への対応において、安全確保のために手厚い人員配置が必要となり、全体の余力が限られやすい</p> <p>日々の支援業務が中心となる中で、情報発信や家族支援の機会が限定的になりやすい</p> <p>子どもの特性（個々の性格や発達段階）により、活動参加のしやすさに差が生じやすい</p>	<p>利用状況に応じた職員配置の見直しや役割分担の工夫により、柔軟な支援体制を整える</p> <p>日誌内容の充実やSNS・お便り等を活用し、支援内容や取り組みの「見える化」を進める</p> <p>小集団活動や段階的な参加支援を取り入れ、子ども一人ひとりが参加しやすい環境を整える</p> <p>活動機会の複数設定などにより、利用曜日による体験機会の差を軽減する</p>
2			
3			